

生徒指導課題における小学生の金銭的行為と自尊感情との関係性

谷本 千保 / 竹西 亜古

1 研究目的

小学校における生徒指導事案において金銭が介在する事例が後を絶たない。こうした問題行動や反社会的行動は、親や友だちあるいは社会とつながっていたいという、絆を求める積極的な人間関係の希求であると予測される。しかし学校現場の現状では、このような行動に関わる子どもの内面への理解が不足していると言わざるを得ない。そこで本研究は、生徒指導に関連する子どもの金銭的行為を子どもの心理的側面から明らかにすることを目的とする。本研究では、子どもの自尊感情や自己効力感、対人葛藤耐性などとの関連で金銭への執着や金銭の関わる対人行動を検討することで、予防的・開発的生徒指導の基盤となる知見を提出するとともに、現場での指導に示唆的な提案を行いたい。

2 研究方法

1) 調査対象者

A 県 B 市内の公立小学校 5、6 年生 計 224 名

2) 調査時期

2012 年 3 月

3) 質問紙の構成

使用した尺度については、以下の通りである。

① 金銭面から捉えた子どもの価値観や関係性に関する尺度

自身の先行研究(谷本, 2011)で主要因子として抽出した、関係・拝金・悲観の 3 因子に負荷した項目を使用した。

② 関係自尊心尺度 (関係的幸福、関係的存在意義) (竹西, 2010)

③ 関係葛藤耐性、道徳的行動、自己効力感 (竹西ら, 2011)

4) 研究方法

① 因子分析

子どもお金に対する態度の心理的構造を明らかにするため、因子分析を行う。

② 合成変数の作成

実施した全46項目のうち、自己効力感・存在意義・関係的幸福・関係自尊心・道徳的行動のそれぞれについて、個々の回答を単純合計した合成変数を作成する。また同様に、拝金・悲観の項目で合成変数を作成する。

③ 相関分析

拝金、悲観など「子どものお金に対する態度」と、子どもの心理状態「関係自尊心」「自己効力感」などが、どのような関係を持っているかを検討する。同時に、お金に対する態度間の相関も明らかにする。

3 結果と考察

① 友人関係と拝金傾向の関連性

学校現場での金銭に関する問題行動の多くは、個人的なものではなく関係性から生じた結果発生したものがほとんどである。おごるおごられる、お金で都合をつけるなどの行動は、友人との関係を維持していく一つの手段のように捉えている児童がいることも否定できない。こうした実態から、お金を、友人関係を維持する上で、または自分を保持するために必要なものと絶対視しているのではないかと考え因子分析を行った。

表1 「お金に対する態度の因子分析」

(最尤法プロマックス回転)

	因子	
	1	2
32 無い情け無い	.034	.302
33 みせびらかす	.030	.575
34 無い仲間はずれ	-.074	.727
35 有る自慢	.175	.540
36 無い焦り	.056	.659
27 所有比較	.673	-.004
29 所有自信	.531	.175
30 所有楽しい	.804	-.078
31 交遊金要る	.669	.097

表2 「お金に対する態度の因子分析2：友人関係の項目

を加えたもの」 (最尤法プロマックス回転)

	因子	
	1	2
37 くれる仲良し	.540	.155
38 おごるかっこいい	.570	.053
39 あげる好意	.437	.259
40 おごりたい	.534	-.036
27 所有比較	.678	-.043
29 所有自信	.538	.172
30 所有楽しい	.792	-.096
31 交遊金要る	.603	.117
33 みせびらかす	-.042	.651
34 無い仲間はずれ	-.038	.646
35 有る自慢	.072	.636
36 無い焦り	.119	.572

因子分析結果（表1）からは、お金に対する児童の態度が、2つの因子からなっていることが示された。第一因子は”所有の肯定”であり、これを「拝金傾向」と呼ぶ。第二因子は”友人関係におけるネガティブな影響”であり、これを「悲観的態度」と呼ぶ。この結果は谷本(2011)で得られた結果と同様であった。お金に対する態度として、拝金と悲観の因子が繰り返し見られたことは、この2つが子どものお金に対する心理として一般的に見られるものである可能性が高いことを意味している。

お金を介した友人との関係性項目を加え、再度因子分析を行った（表2）ところ、「お金をくれる友だちと仲良くしたい」「友だちと遊ぶときお金があった方が楽しい」などの友人関係にかかわる関係性の項目が、「お金や物をあげると好意を持ってくれる」、「おごってあげる人はかっこいい」などの「拝金傾向」と同一の因子に負荷した。このことは、お金を所有することへの肯定感と、お金を介した友人関係が心理的に同一の次元であることを示している。従って、児童の拝金的傾向は、お金を持つことによって友人関係を円滑にしたい気持ちゆえに生じている現象だと考えられる。拝金傾向の高い児童ほど、友人

関係の維持、構築にお金が有効な手段であるとする傾向にあるということがわかる。

② 相関関係 - 全体 -

次に、拝金、悲観など「子どものお金に対する態度」と、子どもの心理状態「関係自尊心」、「自己効力感」などが、どのような関係を持っているかを検討した。

表3の数値を見ると、拝金と悲観の間で正の相関($r=0.475$)があることがわかった。この結果から、拝金傾向が強い児童ほど、お金を持っていないことによって悲観的思考が強くなるということがわかる。すなわち、お金に価値と万能感を見出している児童ほど、お金を持たないことが悲哀の要因になっているということである。

拝金傾向と道徳的行動・自己効力感・対人葛藤耐性の3項目間に、負の相関($r=-0.288,-0.186,-0.137$)がみられた。これは拝金傾向が強い児童ほど、道徳的行動が取りにくい、自己効力感が低い、対人葛藤耐性が弱いということを意味している。また悲観と道徳的行動、対人葛藤耐性の間でも同様に負の相関 ($r=-0.191,-0.344$) がみられた。悲観意識が強いほど、道徳的行動や対人葛藤耐性が弱いということも合わせて明らかになった。

③ 相関分析 - 男女比較 -

相関分析の結果を男女で比較すると興味深い結果が得られた。男子についてはどの項目間においても相関がみられなかったのに対し、女子では拝金・悲観の両因子に道徳的行動、自己効力感、対人葛藤耐性それぞれで負の相関(拝金： $r=-0.281,-0.298,-0.268$ 、悲観： $r=-0.227,-0.191,-0.495$)を示した。拝金傾向及び悲観傾向の強さと心理的側面それぞれに左右されやすいのは男子より女子であることが明らかになった。

4) まとめ

今回の研究の結果を検討すると、男女の違いは、現場で生じている高学年女子児童の指導の難しさと密接に結びついていると考える。高学年女子児童の生活指導上の問題の多くは友人との関係である。友人同士の間でグループ化や固定化が進んだり、上下意識が表出したりするため、学級経営の課題に必ず挙げられる事象となっている。

思春期前期の子どもたち、特に男子に比べて女子は、他者との関係性によって、自身の心理的状态が揺さぶられる傾向にある。すなわち、女子ほど友人関係を構築していく上で、金品に価値を見出しがちで、それが叶わないことで悲観意識に陥りやすいということである。加えて、他者との付き合い方によって道徳的行動が揺らいだり、自己効力感を得にくかったりすることも明らかになった。

今回の分析結果から、男子はお金に関する問題行動が生じた時、個の問題としてその行為自体への直接指導である程度解決できるのに対し、女子は問題行動の裏にある、家族や友だちなどの人間関係から、解決の糸口を探る必要があるということが分かった。なぜ女子の方が人間関係に左右されやすいのかという点については、社会化の過程における性差などの側面から今後さらなる検討が必要であろう。

小学生の金銭的行為は個の問題として帰結できるものではなく、他者との関係性による結果の一つとして捉える必要があることが明らかになった。指導にあたる教師は、お金の使い方やお金に対する考え方、生じた行動の是非を指導するだけでなく、その背景に潜む子ども同士の関係性や家族との関係性にも目を向ける必要がある。そうすることで、児童理解の深長と再発防止につなげることができるであろう。

表3 相関係数：全体

		拝金得点	悲観得点	関係的存在意義	関係的幸福	道徳的行動	自己効力感	対人葛藤耐性
拝金得点	Pearson の相関係数	1	.475**	.036	.016	-.288**	-.186**	-.137*
	有意確率 (両側)		.000	.593	.818	.000	.006	.043
	N	222	220	219	220	219	219	217
悲観得点	Pearson の相関係数	.475**	1	.002	-.041	-.191**	-.130	-.344**
	有意確率 (両側)	.000		.979	.545	.005	.055	.000
	N	220	222	219	220	219	219	217

表4 相関係数：男子

		拝金得点	悲観得点	関係的存在意義	関係的幸福	道徳的行動	自己効力感	対人葛藤耐性
拝金得点	Pearson の相関係数	1	.434**	.083	-.050	-.304**	-.116	-.035
	有意確率 (両側)		.000	.410	.614	.002	.243	.734
	N	103	102	101	102	101	103	98
悲観得点	Pearson の相関係数	.434**	1	.067	-.043	-.159	-.103	-.154
	有意確率 (両側)	.000		.505	.671	.113	.302	.129
	N	102	103	101	102	101	103	98

表5 相関係数：女子

		拝金得点	悲観得点	関係的存在意義	関係的幸福	道徳的行動	自己効力感	対人葛藤耐性
拝金得点	Pearson の相関係数	1	.536**	.003	.046	-.281**	-.298**	-.268**
	有意確率 (両側)		.000	.976	.635	.003	.002	.004
	N	111	111	110	110	110	109	111
悲観得点	Pearson の相関係数	.536**	1	-.030	-.036	-.227*	-.191*	-.495**
	有意確率 (両側)	.000		.756	.711	.016	.045	.000
	N	111	112	111	111	111	110	112

<引用文献>

- 竹西亜古 (2010) 自尊心とメンタルヘルス『メンタルヘルスへのアプローチ (西村健監修)』ナカニシヤ出版
- 竹西亜古ほか (2011) 自尊感情を育てる心の教育に関する調査研究 加東市教育委員会兵庫教育大学連携協力事業『学校における心の教育に関する実践研究』報告書 (1)
- 谷本千保 (2011)『コミュニケーション・メディア』としてのお金から捉えた子どもの価値観や関係性への量的・質的アプローチ 生徒指導研究第22号